

当院DMA T引き続き支援活動実施



写真：いしかわスポーツセンター「一時待機ステーション」

待機ステーション の運営支援へ

令和6年1月17日には、石川県金沢市のいしかわスポーツセンター内につくられた高齢者施設からの避難者が次の施設の受け入れが決まるまでの待機場所である「一時待機ステーション」の運営支援のため当院DMA T（二次隊）を派遣しました。

待機ステーションは、簡易的なブースで2箇所のエリアがつけられており、両エリアをあわせ146床が準備されていました。しかし、

かけはし

特別号

2024.03

[発行]

社会福祉法人
恩賜財団
済生会滋賀県病院
SAISEIKAI SHIGA HOSPITAL



写真：入所者の受付をする看護師

日々入所者が増える状況にあり、最終的には160床まで受け入れを増やすことになりました。介護が必要な方が多く、看護師は入所者の受付から日々の体調管理、日常生活ケアを中心に支援を実施しました。ロジスティクスは入所者の情報の管理や体調不良者を病院へ搬送するための調整など、事務作業に従事しました。また次のDMA Tが来てもスムーズな引き継ぎができるように待機ステーションの運営体制構築も大きな役割のひとつでした。

現地では、十分な衛生環境が確保しにくい状況にあり、発熱・下痢などの感染症も流行していました。入所者の体調管理もさることながら、自分達自身の体調管理にも十分に気を付ける必要がありました。誰一人体調を崩すことなく、1月21日に帰院しました。

職種・組織を超えた 連携の強化

1月24日には、引き続きいしかわスポーツセンター内の一時待機ステーションの運営支援を行うべく、当院DMA T（三次隊）が発派されました。この日は大雪の予報があり、当初の予定時刻を4時間ほど早めての出発となりました。



写真：雪道の中、無事現地に到着



写真：入所者の顔写真を撮影し容態とともに記録する看護師

今後の運営維持のためにできることを

三次隊の活動は待機ステーションの運営支援の他に、DMAT撤退後、自治体や保健所など各種団体が継続して待機ステーションを運営できるようにするためのマニュアル整備や体制の簡素化など、運営移行のための体制構築が重要なミッションとなっていました。

医師、看護師、ロジスティクスがそれぞれの部門でリーダーの役割を担い、指揮をとりました。特に看護師は介護士などとして一体となって他職種、他組織間の垣根を取り払い、待機ステーションの円滑な運営体制構築のため、積極的にコミュニケーションをとり、スタッフ間の連携強化に貢献しました。活動終了日には各組織から「もう少し一緒に活動したい」と当院DMATの活動終了を惜しむ声をいただきながら、1月28日に帰院しました。



写真：他のDMATの看護師と積極的に情報共有する当院看護師



写真：本部で指揮をとる当院医師

DMAT撤退に向けて業務の簡素化と縮小に尽力

1月31日には、石川県庁内に設置された金沢以南保健医療福祉調整本部に当院DMAT（四次隊）を派遣しました。

調整本部は、待機ステーションなどで活動を行っているDMAT全隊の活動指揮の中核となる場所で、今回は支援を行っているDMATの撤退に向けて待機ステーションの運営業務の簡素化と規模の縮小を行うため、情報分析などのロジスティクス業務にあたりました。

主な業務は経時記録（クロノロ）の作成や待機ステーションの入所者情報の吸い上げと報告、それによる業務簡素化のための改善などでした。

特に力を入れたのは入所者情報の記録管理の簡素化と一元化です。今後の運営を担う各種団体が引き続き体制の維持や簡便な情報管理が行えるように、必要欄に情報入力するだけで日報および月報が作成できるデータベースを作成し、使用方法について引き継ぎを行いました。

無事引き継ぎを終えた四次隊は2月4日に帰院しました。



写真：石川県庁に到着

編集後記

2月4日をもって、当院のDMAT活動は一区切りとなりました。被災地では発震から約2カ月が経過しましたが、今後も状況の変化に応じた対応が求められており、当院も引き続きできる限りの支援を継続していきます。被災地の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

【済生会滋賀県病院】

「いっとき」日報

2024年2月2日(金) 8:00現在

区分	新規入所者	退所者	合計
公営・公営指定	10	5	15
民間	5	2	7
合計	15	7	22

月報へ転記



写真：作成したデータベースの使用方法など引き継ぎを行う当院看護師